

施策番号	225	施策名	観光の振興	令和3年度主管課名	産業観光課
総合計画 体系	政策名	2	地域経済を支える里づくり	令和3年度課長名	小椋 正己
	関係課名	まちづくり課		シート作成者	小谷 英

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度	
ア	町内への来訪者(観光客)	→	ア	千人	見込値			16,957	16,957	16,957	
						実績値	16,957	16,957	16,957		
イ		→	イ	回	見込値			5	5	5	
						実績値	4	0	0		
ウ		→	ウ		見込値						
						実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度	
ア	多くの観光客に来町し滞在し消費してもらおう	→	ア	千人	見込値	1,080	1,100	800	825	900	
						実績値	925	729	790		
						達成率	85.6%	66.3%	98.8%	95.8%	87.8%
イ		→	イ	千人	見込値	29	30	20	21	24	
						実績値	24	18	17		
						達成率	82.8%	60.0%	85.0%	81.0%	70.8%
ウ		→	ウ		見込値						
						実績値					
						達成率					
エ		→	エ		見込値						
						実績値					
						達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	直接的に判断が可能な観光客入込客数により成果指標を設定。町内各施設からのデータを町が集計し、集計対象、集計方法を明確にして、継続的に実施※H19より集計方法変更(年間入場者数調べー各観光施設報告実績を全て加算したものー延べ人数)最大の誘客を誇るもみじ祭りは集計が不可能。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	観光客入込客数 延べ宿泊数 (鏡野町内観光客入込調査)					

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ・町民は、町内の観光資源を理解し、広くPRすることに努める。 ・町民は、町内の各種観光イベントに積極的に参加するよう努める。 ・観光事業者は、積極的な営業活動を行い、地域の活性化に努める。 ・観光協会は、観光資源の開発・売り込みや、観光資源のPR活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源を活用した町内周遊コースの創出や観光協会をはじめ関連機関との連携による積極的な観光客へのPRを行う。 ・観光客が安全・快適な観光を行うための環境づくりを行う。 ・観光団体や観光ボランティアへの育成・支援を行う。 ・観光事業者が実施するコミュニティビジネスに対する支援を行う。

3. 評価結果

3 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	<p>観光入込客数は、目標に対し僅かに達成出来ていないものの、自然志向の高まりにより自然スポットへの来場者は横ばいもしくは一部増加となっている所があり、前年比より微増となっている。宿泊客数については、コロナ禍により、宿泊施設や飲食店などは深刻な影響を受けており減少が続いているが、目標値の見直しを行ったことにより達成率は上がっている。</p> <p>② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)</p> <p>近年の自然志向の高まりにより、自然スポットへの来場者が横ばい若しくは一部増加している。これにより観光入込客数の微増に繋がっているものの、コロナ禍により宿泊施設や飲食店などは深刻な影響を受けており、宿泊施設利用者減少が続いている。近年、異常気象により、プランやイベントの中止、温暖化による雪不足など、経営リスクが高まっており、観光施設の修繕工事等を行い魅力向上を図っているものの、全般的にも目標を下回っている。</p> <p>③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)</p> <p>コロナ禍における宿泊者数については、美作三湯と比較すると湯原や湯郷も大幅に減少しており、奥津温泉についても、昨年に引き続き大幅に減少している。ただし、自然スポットや施設については、影響は最小限となっており、自然をメインとした旅行需要の高まりが感じられる。</p>
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	<p>町の重点施策である「健康」をキーワードに、地域資源を活かしたエコツーリズムを推進する国の補助事業を受けて、「健康の町かがみのプロモーション本部」が中心となり、一体的なPR・プロモーションに取り組んできた所であるが、コロナ禍により、関西等県外PRイベントやプロモーション活動は多くが中止となる中で、戦略的な情報発信や会員制ファンクラブの運用、受入環境整備を進めた。文化・スポーツ施設の合宿補助金の実績など、昨年同様に低い水準となった。</p>	
3. 施策の振り返りと総括(3年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	<p>① 施策の成果向上につながった主な事務事業 自然アクティビティ等体験プランの実施</p> <p>② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業 五大イベント</p> <p>③ 施策全体の振り返りと総括</p> <p>町の重点施策である「健康」をキーワードに、地域資源を活かしたエコツーリズムを推進する国の補助事業を受けて、「健康の町かがみのプロモーション本部」が中心となり、一体的なPR・プロモーションに取り組んできた所であるが、コロナ禍により、人の移動が大幅に制限され、前年同様に低い水準となった。また、関西等県外PRイベントやプロモーション活動は全て中止となり、戦略的な情報発信や会員制ファンクラブの運用の他、自然アクティビティ等の受入環境整備など、一部向上した取り組みもあった。文化・スポーツ施設の合宿補助金の実績など、殆どの実績が前年同様に低い水準となった。</p>	
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	<p>① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業 観光地域づくり法人(DMO)を核とした観光振興</p> <p>② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により観光産業は大きな打撃を受けており、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた新しい観光戦略が必要であり、安心・安全な受入環境の構築は勿論のこと従来の観光需要だけに頼らない観光振興の構築が課題である。 ・鏡野町の強みである健康素材のブランディングを進め、自然環境を活かしたエコツーリズムの推進による受入環境の充実を図ると共に美しい水に抱かれた森林や農林水産物、温泉等を活かした地域資源の商品化を進め一体的なPR・プロモーションを展開する。 ・鏡野町観光協会とプロモーション本部が中心となり、観光地域づくり法人(DMO)の設立に向けた推進体制の構築を進める。 ・鏡野町北部地域のビジョンに基づく戦略により、商品開発や受入環境整備を進め、ファン創出による観光消費額の拡大を目指す。 	